

令和6年度第2回町史編さん委員会

（事務局）

ただいまより、令和6年度第2回町史編さん委員会を開催いたします。本日は、委員8名中7名の出席でございます。開催にあたりまして、委員長から一言ご挨拶をお願いいたします。

（委員長）

皆さん、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

令和6年度第1回の町史編さん委員会は4月23日に開催されましたが、それから約4ヶ月間、間を置かせていただいたのは、町史の編さんを委託する業者を決めるために一定の期間をいただきたいということで、その間業者の選定にあたらせていただきました。今日はその業者が決まったこと、また印刷の仕様への変更の提案が業者からきておりますので、皆さんと協議しながら印刷の仕様について検討するところが、今回の大きな協議事項になります。

今までの業者選定等の経過も含めまして、事務局から報告をいただきたいと思います。

（事務局）

ありがとうございます。この後は委員長が議長となって議事を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（委員長）

それでは早速議事に入らせていただきます。皆さんのお手元にある今日の資料の次第3で、報告第1号洞爺湖町史編さん業務委託受託候補者の決定について、事務局から説明があります。

（事務局）

報告第1号洞爺湖町史編さん業務委託に係る受託候補者の決定についてです。

町では、洞爺湖町史編さん業務委託事業者選定委員会を設置しまして、プロポーザル方式による選考を進めてまいりました。その委員には副町長、総務部長、経済部長、洞爺総合支所長、企画財政課長、また編さん委員会から委員長、副委員長の7名で構成させていただきました。町が指名した事業者は2事業者でしたが、1事業者から辞退があり、プロポーザル参加者は須田製版様1社となりました。

令和6年度第2回町史編さん委員会

7月23日に選定委員会を開催しまして、事業者からのプレゼンとヒアリングを行い、提案内容の審査を行ったところでございます。選定委員による評価の結果、実施要領に定める基準をクリアしたことから、株式会社須田製版様を受託候補者として決定したところでございます。また企画提案の中で、印刷仕様について事業者から別途提案がございましたので、この後の議事で印刷仕様について検討をいただいた上で、正式な委託契約を結ぶこととしております。報告は以上でございます。

（委員長）

選定されました須田製版様には本会議に出席していただいておりますので、ご挨拶や編さんに関わった経緯から経過も含めてご挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。

（須田製版）

今回は受託に向けて候補者ということで、評価をいただきましてありがとうございます。

町史に関しまして、現在弊社ではこの洞爺湖町史の他に3市町の町史を同時並行させています。プロポーザルの際はここ最近の町史のあり方について、今までと違うような形でご提案をさせていただきながら皆さんに理解をしていただき、良いものができればという思いでプレゼンをさせていただいておりますので、ぜひ皆さんに検討していただければと思います。よろしくお願いいたします。

（委員長）

ありがとうございます。

次に次第4の議事になります。皆さんと協議してまいりたい事項に入りますので、よろしくお願いいたします。

議事第1号の洞爺湖町史印刷仕様変更の検討について事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）

4月23日開催の第1回町史編さん委員会で、洞爺湖町史編さん業務委託仕様書の中の印刷仕様について皆さんに決定いただいたところでございます。その内容を資料2ページの左側に記載してございます。当時は、これまでの発行の流れをあまり崩さないようにということで、A5判を中心に決定いただいたところでございます。ただ

令和6年度第2回町史編さん委員会

決定の際には、事業者の提案も考慮してはどうかというお話をいただきました。そのことから、仕様書自体に“上記印刷仕様は状況により変更することもある”と記載したところでございます。

今回、受託候補事業者から仕様の一部変更について提案がありましたので、それについて今日は皆さんに検討いただきたいと思います。提案の内容につきましては、2ページの右側になります。大まかに言いますと、まず印刷サイズをA5判ではなくA4判にすることと、縦組みではなく横組みにしたいということ。また、町でこれまで作った町史の表紙は折り曲がるくらい柔らかかったのですが、それを少し硬めにしてケースをつけるというような内容でございます。今日は須田製版様が来ておられますので、この内容やA4判にすることのメリット等についてご説明いただこうかと思います。

(須田製版)

プロポーザルのプレゼンには、一部の編さん委員しかいなかったと思いますので、弊社から直接説明をさせていただくのは初めてになるかと思います。

まず弊社の提案ポイントですが、今各市町村の町史のご担当者から多くいただいているのが、もっと町民に見ていただきたい、もっと見やすく読みやすいものを作ってもらいたいという要望です。こういったことを弊社は大切にしてお提案をさせていただいております。そこにあたって、以前から定番であるA5判の縦組みの町史ではなくもっと見やすいもの、読みやすいものを作るためにはこういったものがないんだろうかと今まで考えてきました。

そこで弊社の提案として今回たどり着いたのが、紙面の大きいA4判にすることと、デジタル化が進んでいる時代の中で、出来上がった後WEB等にアップされることも想定したときに、やはり横組がいいのだろうかと考えましたし、ここ最近発行される町史は横組みがどんどん増えているという状況も踏まえて、A4判の横組みを提案させていただきました。A5判の小さい紙面でできることとA4判の大きい紙面でできることではやはり違います。判が大きくなればなるほど図面、図版の使い方や写真の使い方が変わりますし、紙面が大きくなりますので当然A5判よりも文字が大きくなります。そういった様々な部分で見やすい本にすることができます。先ほど申し上げました、現在並行して行っている3市町の町史も全て横組みを採用しております。ですから、これからの町史に関しては、一歩昔の20、30年前に作った町史とは考え方が違うのではと考え提案させていただきました。

令和6年度第2回町史編さん委員会

ではなぜA5判の横組みでは駄目なのかと言いますと、A5判の小さい紙面の中で写真や図版等を横組みにしてまとめるには若干窮屈になり、見やすさは欠けてしまうのではと思い、A4判に必ずしもこだわるわけではありませんが、A5判よりも大きいサイズや、変形判等で作った方がコンセプトに合うのかなということでプレゼンをさせていただきました。最後にもう一つ、今まで作っていたもののようなA5判のものにカバーを巻くという仕様書でしたが、それではなく判を大きくすることで、安定感を持たせることや保存のことも考えてケースをつけるのがいいだろうと判断しました。ケース自体はカラーで作り、手に取った人に中身がどういうものか想像してもらえるようなものを目指せるよう、提案しております。

若干補足しますと、文字を大きくできるという話をさせていただきましたが、町史の仕様書では文字の大きさは14Qになっており、私どもの提案も14Qですので、仕様書と同じ文字のサイズになります。ただ判型を大きくすると、例えば見出しや小見出し等の文字をある程度大きくすることが可能です。また表が入る場合も、表の中の文字もA5判よりはA4判の方が文字の大きさを選びやすくなり、若干表を大きくしたい場合には、中の文字も合わせて大きくする事が可能です。A5判であった場合、大きな表を入れようとするとうちでも2ページ、3ページにわたることが考えられますが、A4判にすることで表を途中で切らずに1ページの中に収められるという利点もございます。

(委員長)

図版や写真を入れやすくなったり、それを説明する文字も少し大きめに設定できたりすること、またデータ化したときに様々な形で活用しやすくなるようです。ただ、編さん委員で考えた仕様は、慣れ親しんだ大きさである従来の形でいいのではとしていたので、今日のご提案をいただきました。また、写真を多く取り入れてくれるということで、300点程度と考えていたものが1000点程度はできそうだというお話でした。

では、G委員から感想も含めて意見を伺ってもよろしいでしょうか。

(G委員)

今回A4判にすることと組体裁を横組みにすること、またケースをつける等の新たな変更の提案がありました。これについては関係者と協議した上で今回の会議でご提案いただいたということで、前回の会議でも体裁等はより良い方向で進めるということで合意できていると認識しておりますので、私個人としては今回受託候補者の方が

令和6年度第2回町史編さん委員会

らの提案内容についてはよろしいかと思います。また進めていく中で、様々なご提案や修正等が出てくるものだと考えておりますので、その辺は柔軟に捉えて進めていく形でよろしいのではと考えます。

（委員長）

C委員お願いいたします。。

（C委員）

G委員と同じです。

（委員長）

A委員お願いいたします。。

（A委員）

北海道新聞も先月から文字が大きくなったと知り、やはりそのような傾向があるのかなと思いますし、見やすくなるのはとてもいいなと思います。

（委員長）

冊子の大きさは、従来の形か今回提案のあった大きな形のどちらがいいですか。

（A委員）

私はやはり大きい方がいいと思います。

（委員長）

E委員お願いいたします。

（E委員）

僕も須田製版様の提案に賛成します。

（委員長）

F委員お願いいたします。

（F委員）

今まで縦組みだったものを横組みになるということで、若い人にとっても読みやすくなりますし、親しんでもらいやすいかなとおもいます。また写真を多く組み入れて

令和6年度第2回町史編さん委員会

くれるというお話がありましたので、それについてもよろしいかなと思います。

（委員長）

B委員お願いいたします。

（B委員）

他の市町村でもそのような傾向にあるということで、皆さんもおっしゃったように大きい形の方が見やすいし、今までよりはむしろ良いと思うので賛成します。

（委員長）

わかりました。皆さんがおっしゃったように、A4判にすると図版や写真を入れやすく文字も大きくできることや、横組みの方が若い世代の人は慣れていること、データ化しやすいことなどから、手に取りやすい、活用しやすい町史にできるのではないかと思いますので、町史の規格はA4判で進めていくということで決定したいと思います。

（事務局）

規格をA4判で横組みにすると決定いただきましたが、表紙とケースについてはどうしましょうか。

（須田製版）

補足させていただくと、従来の自治体史はハードカバーと呼ばれる硬い表紙をつけていました。頑丈で保存性が良いですし、自治体史は多くの人が利用するという前提で作るので、劣化しにくいハードカバーを選ぶことが多くありました。一方、虻田町史のように並製と呼ばれる柔らかいソフトカバーのものも、様々な自治体史で使われています。こちらの場合は、ケースではなくカバーをつけて保存性を高めています。

そして私どもがご提案したのは、町の仕様にのっとった少し硬い並製の表紙にケースをつけるというものです。なぜかといいますと、やはりケースをつけることで保存性は高くなるからです。

ですが、表紙やケースについては現時点では保留にしておいて、数年後に決断する形でも良いと思います。まずは中身が決まらないうと進まないということもあるので、ある程度進行したときにもう一度協議してもよろしいんじゃないかと思います。

（委員長）

令和6年度第2回町史編さん委員会

ケースがついた場合、コストはかなり変わるものなのでしょうか。

（ 須田製版 ）

今のところ部数が300部になっているので大きく変わるわけではありませんが、やはりケースがついた方が若干高くなります。ですが、これは予算の中で全部やるという判断で私どもから見積もりを出してるので、想定の範囲内です。

（ 委員長 ）

コスト的にも予算の中で枠組みを組んでいただけてますし、最終的にカバーをつけるか、ケースをつけるかという判断はもう少し先でも良いというお話でしたので、今後編さん委員会を進めていく中で決めていきたいと思います。

それでは、議事第2号の町史の編さんの基本的なスケジュールの確認について、事務局の方から説明をお願いいたします。

（ 事務局 ）

お手元にA3判のスケジュール表がありますが、これは須田製版様が企画提案用に7月に作成されたものでございます。ですので多少タイムラグ等もあるかもしれませんが、ご了解いただきたいと思います。

作業自体は令和6年度から令和11年度までの6年間になります。令和6年度は構成案の確定が主な作業となるかと思います。その次の令和7年度につきましては資料収集、本文の装幀案の確定、執筆開始となります。令和8年度は執筆、取材、また初校の提出開始となります。令和9年度は校正の戻り直しがあり、執筆が終了。令和10年度で再校正を進め、令和11年度に表紙と口絵のデザイン等を確定し、通し校正、印刷製本、納品まで行います。まだ契約前ですので、あくまでもスケジュール案として考えていただいて、さらにしっかりしたものを正式な契約を結んだ後に作っていただこうと思っております。また作業の進捗状況によっては見直しも考えてございますので、その都度編さん委員会に報告させていただきたいと思います。

簡単ですが、私からの説明は以上です。須田製版様から補足等ございますでしょうか。

（ 須田製版 ）

このスケジュール案についてポイントがあるのですが、今年度は構成案を作らせていただいて、足りない部分やいらぬ部分がないかどうかチェックをしていきなが

令和6年度第2回町史編さん委員会

ら、構成案の細かいところまで作り上げる作業をします。通常の町史の内容に加えて重点項目をどう記述するかなど、編さん委員会の方で協議をして手直しをしながら確定していきますので、構成案の作成に時間がかかると思います。構成案が確定した後、執筆者の選定、資料集め、執筆開始という流れになります。令和7年度の6月に本文装幀案提出となっていますが、今回A4判に決まりましたので、本文にどのくらい文字がはいるのか、見出しやタイトルはどのくらいの大きさになるのか、図表が入る場合はどのようになるのかなど、本番を想定したデザイン案を皆さんに提出して確認していただきます。良しとなればそのデザインに沿って出来上がった本文を流し込んでいくという作業をします。こういったことを繰り返して、校正を2、3度行い、装幀して確認、その後印刷製本という形で行っていきます。

（委員長）

今年度に関しては、構成を決めて、7、8、9年度で構成案に沿った資料を集め、その資料を筆者に見ていただきながら執筆していただいて、編さん委員会の方でも目を通しながら修正をしていくというお話でした。このあとの編さん委員会でエネルギーがいるのは、構成案をみんなで確定していくところではないかと思います。重点項目について、皆さんに出していただくのが大変ですので、その辺は要望を伝えられるように皆さんの方でも整理しておいていただけたらと思います。

では、その他で何かあますか。

（事務局）

事務局から一点お知らせします。第3回目の編さん委員会を今のところ11月くらいに開催を考えております。今お話が出ました構成案について、事務局と須田製版様で詰めていきます。そして私どもの案が固まり次第、皆様にご案内して検討いただきます。日時、会場についてはまた後日連絡させていただきたいと思います。以上です。

（委員長）

次回の編さん委員会は構成案の確定になります。日程については皆さんと調整を図りながら決めたいと思います。

皆さんからご意見も含め、質問等ありませんか。

それでは第2回目の編さん委員会を終了したいと思います。須田製版様もお忙しい中、ご出席くださいまして誠にありがとうございました。以上で終了したいと思います。

令和 6 年度第 2 回町史編さん委員会

す。皆さんありがとうございました。